

平成 30 年度 仙台市若林区区民協働まちづくり事業 企画事業
実績概要報告書 (平成 31 年 2 月 25 日現在)

No.	事業名	担当課	ページ
1	子育て支援推進ネットワーク事業	家庭健康課	1
2	若林区健康づくり区民会議	家庭健康課	5
3	若林区安全安心街づくり活動推進モデル地区事業	区民生活課	7
4	イラスト入り婚姻届書作成事業	戸籍住民課	9
5	若林区の映像保存・活用事業	若林区中央市民センター	11
6	若林区地域学校連携推進会議	若林区中央市民センター	13
7	ボッチャをとおした区民地域交流促進事業	若林区中央市民センター	15
8	第 30 回 若林区民ふるさとまつり	まちづくり推進課	18
9	地域資源活用事業 (六・七郷堀サポーターズ)	まちづくり推進課	21
10	地域メディアの活用による創造プロジェクト (「ラヂオはいらいん若林」制作・放送)	まちづくり推進課	24
11	第 25 回 若林区合唱のつどい 2018	まちづくり推進課	27
12	わかばやし区春らんまん	まちづくり推進課	29
13	第 29 回 広瀬川灯ろう流し “光と水とコンサートの夕べ”	まちづくり推進課	31
14	若林区魅力発信事業 (若林わくドキまち歩き)	まちづくり推進課	33

平成 30 年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

家庭健康課

2. 事業名

子育て支援推進ネットワーク事業

3. 事業の概要

・子育て支援活動をしている市民団体やボランティア区民、区内子育て支援機関等で構成する「輪っ！かばやし子育て応援団」による事業企画及び実施。事業内容は①のびすく若林と共催で、若林区で初めて子育てする方を対象にした交流会「ウェルカムサロン」の開催、②乳幼児を育てている保護者の交流の場としての「育児サロン」の開催、③子育て支援者研修会の開催。

・輪っ！かばやし子育て応援団に参加している若林区民、育児サークル代表者、区内の幼稚園や保育所、児童館代表等とでマップ作成委員会を組織し、地域に根ざした子育て情報誌「わかばやし子育て情報ブックわっぴー」を作成配布。

4. 事業の目的・ねらい

地域における子育て支援の充実をはかり、支え合いながら楽しく子育てできる地域づくりを目的とする。

5. 事業の成果・効果

- ・子育て中の親子が身近な場所で地域の子育て支援者と交流し、地域の子育て情報を得ることで、親子の孤立化を防止し、楽しく安定した子育てに役立っている。
- ・区民が主体的に子育て支援に取り組むことで、地域の活性化につながっている。
- ・子育て支援者や子育て支援機関との連携がとりやすくなっている。

6. 事業費（決算額）

(見込み額)		
子育て応援団活動	① 育児サロン ② 研修会 ③ 報告集作成 ④ 運営費	① 83,000 (講師謝礼・消耗品費・食糧費・会場費) ② 16,000 (講師謝礼) ③ 25,000 (消耗品費・印刷製本費) ④ 58,000 (講師謝礼・消耗品費)
	わっぴー(子育て情報ブック・マップ)作成	373,840
	合 計	555,840

7. 実施状況（数は2月末現在）

実施時期	実 施 内 容
	<輪っ！かばやし子育て応援団>
4月～3月	子育て応援団活動委員会 10回開催予定。 2月現在9回実施。 延出席者数168人 事業や研修会の企画、運営について話し合いをしている。
7月・1月	市政だよりにボランティアスタッフ募集の記事を掲載 仙台傾聴の会の方8人が新たに応援団員として活動に参加。
5月22日	ウエルカムサロン
9月26日	5/22 10組20人、9/26 9組18人、1/29 8組16人
1月29日	合計 27組 54人の参加 若林区で初めて子育てをする親子を対象にしたサロン。のびすく若林との共催で開催。コーディネーターとして育児サークルの協力があり、先輩ママの立場で進行を担当。子育て応援団員である子育て関係機関(保育所子育て支援センターや幼稚園広場事業担当)から情報を提供し、後日支援センターの利用につながった親子もいた。
2月18日	子育て支援者研修会 19人 講話「ちかごろの子育て事情」 講師：ろりぽっぷ学園 学園長 加茂 光孝氏

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

輪っ！かばやし子育て応援団

- ・地域のニーズに沿った子育て応援団活動を目指し、今後も検討を重ねていく必要がある。子育てを総合的に支援することを目的とした施設である「のびすく若林」が昨年度開館し、家庭健康課とともに事務局を担ってもらっている。子育て応援団とのびすく若林の共催イベントを開催するなど、連携を図った。さらに連携を図りながら、今後の活動内容を検討していきたい。
- ・今年度は、育児サロン等で活動できる子育て応援団員が8人増加し（応援団員数は43人）、参加した親への声掛けや子どもの見守りを丁寧に行うことができた。今後も、イベントや市政だよりでの周知により、子育て応援団をPRしていきたい。

わっぴー（子育て情報ブック・マップ）

- ・今年度よりのびすく若林の職員も委員となり、地域に根ざした子育て情報について話し合うことができた。しかし今年度よりデザイナーが不在となったため、内容の変更に限界があった。次年度作成分よりブックから1枚の用紙へ形式を変更方向のため、委員会で掲載内容を検討していきたい。

9. 今後の事業の目標・展開等

輪っ！かばやし子育て応援団

- ・地域のニーズに沿った活動となるよう子育て支援を実施する。

わっぴー（子育て情報ブック・マップ）

- ・地域情報を委員会で集約し、子育て情報ブック・マップ「わっぴー」に反映するとともに、区役所各事業や地域活動で活用する。

平成 30 年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

家庭健康課

2. 事業名

若林区健康づくり区民会議

3. 事業の概要

「仙台市いきいき市民健康プラン」の実施に向け、平成 14 年度に若林区内の市民団体や教育機関、関係団体で構成する「若林区健康づくり区民会議」を設置した。健康づくりの指針となる「若林区健康づくり行動計画」を策定している。現在、「第 2 期若林区健康づくり行動計画」のもと、区民協働の健康づくり事業として、健康づくりフェスティバルや健康づくりウォーキング講座、健康づくり寸劇の制作・上演などによる健康づくり啓発を実施している。実施にあたっては、関係団体により構成されている委員と、若林区の健康課題の分析や区民が取り組みやすい事業展開について検討している。

4. 事業の目的・ねらい

「区民会議」と行政とが協働で区民の健康づくりの推進を図ることを目的とする。

5. 事業の成果・効果

今年度は若林区の健康課題の現状の分析を通し、関係機関で抱えている課題との照らし合わせや各機関での取り組みやアイデア等の共有を会議を通して行うことで顔が見える関係の構築や、連携を強めることができた。

健康づくりフェスティバルでは、運動に特化した内容に整理し、体験型のイベントを中心に開催することで健康への関心が低い方も楽しみながら運動を生活の中に取り入れるきっかけの機会となっている。健康づくり寸劇については、小・中の防煙教育等の導入部分として寸劇団員が上演するだけでなく依頼元の先生等が演者になってもらうことで、子供たちの関心を高めながら普及啓発の媒体として効果的なツールとなっている。

6. 事業費（決算額）

（見込額）

講師謝礼	49,000
その他報償費	19,600
消耗品	172,000
印刷費	190,000
食糧費	62,000
保険料	2,100
他使用料	60,840
合計	555,540

7. 実施状況

実施時期	実施内容
5月	第2回若林区健康づくり行動計画中間評価・後期計画策定部会 第1回寸劇劇団員交流会 第1回健康づくり区民会議
6月	第1回健康づくりフェスティバル実行委員会
7月	第2回健康づくりフェスティバル実行委員会 ウォーキングイベント・ウォークトライアルの開催 第1回行動計画推進部会 寸劇シナリオ検討会
8月	第3回健康づくりフェスティバル実行委員会 若林区地域学校連携推進会議でわかちやんとげんきくん体操実施
9月	第4回健康づくりフェスティバル実行委員会
10月	健康づくりフェスティバルの開催（区民まつりと同時開催） 若林区健康ウォーク・ラジオ体操大会でのげんきくん体操の実施
12月	第2回健康づくり区民会議
11月	第5回健康づくりフェスティバル実行委員会 介護予防サポータースキルアップ研修にてげんきくん体操の実施
2月	第2回行動計画推進部会
3月	第2回寸劇劇団員交流会

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

若林区の健康課題や指標についての選定作業を行っていく中で、他部署との課題やその解決策に向けての意識の共有化や合意形成作業を推進していく必要がある。

健康づくり寸劇団員の高齢化や人員不足が進んでおり、担い手の発掘と共に健康づくり寸劇の脚本を活用し、依頼元と共に上演できる仕組み作りが必要である。

9. 今後の事業の目標・展開等

・ウォーキングイベント

アプローチしたい対象層を中心に、歩き方の効果的な方策の習得や1か月ウォークラリー（実際の歩数から紙面上の目的地を目指す）の実施など他のウォーキングイベントと思考を変え、ウォーキングの定着を図る。

・健康づくり寸劇

劇団員の派遣と上演にとらわれず、寸劇物品の貸し出しや、一緒に上演するなど融通性を持たせ、活動の場を広げる。また団員増員に向けての対策を実施していく。

・今年度、若林区健康課題の分析を実施しており、次年度は指標の設定と課題解決に向けた方策・事業展開を策定する。また、地域団体や関係機関にも解決の向けての取り組みの裾野を広げ、連携した健康づくりの推進を図る。

平成 30 年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

区民生活課

2. 事業名

若林区安全安心街づくり活動推進モデル地区事業

3. 事業の概要

安全安心の地域づくりを効果的に推進するため、連合町内会単位でモデル地区を指定し、連合町内会を中心に地区内の学校、企業、各種団体と区、警察、消防等の行政機関が連携し、平成 29 年度～平成 30 年度の 2 ヶ年度におけるモデル地区については卸町地区をモデル事業として展開する。

4. 事業の目的・ねらい

仙台市安全安心条例に基づき、区・警察・消防などの関係機関が連携し、地域の自主活動について総合的な支援を行うことで、市民と一体となって地域力を高め、市民が安全に安心して暮らせる住みよい街の実現を目指すものであるが、殊に若林区にあつては単に防犯に関する取組みのみならず、交通安全や防災活動についても積極的に取り入れた事業として実施している。

モデル地区の指定についてはこれまで連合町内会単位であったものを、単一町内会である卸町ふれあい町内会、及び協同組合仙台卸商センターを軸として卸商団地内に限定し実施する。これは、同商業団地内が卸売業や流通業に特化した土地利用しか認められなかった用途地域が変更され、卸町復興公営住宅の完成など、今後商業地域である卸商団地内に人が住まう空間が生じ、住民相互、または住民と企業の新たなコミュニティが創出されるであろうこと、そしてこれらの醸成を図ることが急務であると判断されたからである。安全安心を手法の一つとして本事業の実施を通じた住民と企業の交流がこの卸商団地内において興隆し、また、企業においても商業振興が図られることを期待したい。

5. 事業の成果・効果

平成 30 年 3 月 15 日に行われた第 2 回全体会議において、平成 30 年度年間活動計画の承認を得て、各種事業を実施した。

今年度は防犯・防災・交通安全の 3 本柱のうち、当会会員の意向を踏まえ、防犯啓発活動を実施し、地域に対して当該事業の周知と活動機会の提供を図ることができた。

6. 事業費（決算額）

※見込額

消耗品費	202,000 円	啓発用品（チラシ・グッズ等）、他
印刷製本費	49,000 円	会報発行
食糧費	5,400 円	会議用お茶代

7. 実施状況

別紙「平成 30 年度 卸町地区安全安心街づくりの会 活動実績」の通り

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

・当該事業の実施は、区が事務局として地域への働きかけにより展開されるスタイルであることから、初年度より終始区が提案する内容に沿う形で展開してきた。地域が主体となり活動を展開するための、地域が抱える課題の把握や、解決していくための事業実施ノウハウの提供に不足があったのではないかと考える。

また、地域のコミュニティ醸成を掲げての展開であったが、肝心の卸町市営住宅入居者の参加が振るわず、これは入所者世帯の家族年齢構成や余暇時間の把握に不足があったと考える。

9. 今後の事業の目標・展開等

卸町地区におけるモデル地区指定は今年度にて終了となるが、引き続き地域の要請により支援していく体制を堅持したい。

次期モデル地区については薬師高砂堀通り沿いを中心とした地域をモデル地区とし、防犯を主体とした各種団体間の連携強化を図る事業展開を予定している。

平成 30 年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区役所戸籍住民課

2. 事業名

イラスト入り婚姻届書作成事業

3. 事業の概要

- ・区制 30 年を記念し、若林区役所の若手職員で構成する「WAK30 プロジェクト」により、多くの方々に喜んでいただけるようなオリジナルイラスト入り婚姻届を作成する。
- ・11 月 22 日（いい夫婦の日）にプロジェクトメンバーが婚姻される方々を祝福するために写真撮影のサポートや区長との面談のセッティングを行う。
- ・いい夫婦の日に合わせて婚姻届を提出される方々へウエディングレコード（婚姻記念カード）の配布を開始する。

4. 事業の目的・ねらい

- ・若林区施行 30 年を記念して、若林区役所に婚姻届を提出されるお二人の新しい門出を温かくお祝いし、若林区役所に婚姻届を提出してよかったと思っただけけるオリジナルイラスト入り婚姻届を作成する。
- ・区役所の中だけでイラストを決めるのではなく、区民の方の声を聴き、幅広い年代の方が喜んでいただけるような婚姻届を作成する。
- ・若手職員が部署を超えて協力し、同じ目標を達成することにより、学びを得る。

5. 事業の成果・効果

- ・今回の事業で作成したオリジナルイラスト入り婚姻届のデザインでは、明るくかわいいデザインの中に若林区の特色、名所を盛り込み、より区に親しんでいただけるよう工夫した。
- ・オリジナルイラスト入り婚姻届作成とともに行ったフォトスポット設置、婚姻記念カード配布等は多くの方に喜んでいただいております、区制 30 年記念事業にふさわしい事業となった。
- ・若手職員が主体となって区民の方々の意見も取り入れながら、職員が一体となって動き、普段とは違った職務を経験することにより、職員自身のスキルアップにもつながった。

6. 事業費（決算額）

679,555 円（調査委託費：583,200 円、消耗品費：96,355 円）

7. 実施状況

実施時期	実施内容
平成 30 年	
5 月 23 日	第 1 回打ち合わせ
6 月 13 日	第 2 回打ち合わせ
6 月 19 日	第 3 回打ち合わせ
6 月 27 日	第 4 回打ち合わせ
	以降担当グループごとに打ち合わせ
9 月 21 日	デザイン 6 案第一校納品
9 月 23 日	薬師堂駅前カフェテラス&ボンマルシェでアンケート
9 月 26 日～28 日	若林区区役所一階ロビーでアンケート
10 月 2 日	聖和学園でアンケート
10 月 30 日	オリジナルイラスト入り婚姻届納品
11 月 1 日	オリジナルイラスト入り婚姻届配布開始
11 月 16 日	ウエディングレコード（婚姻記念カード）納品
11 月 22 日	いい夫婦の日（1122 プロジェクト開始）

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

- ・WAK30 プロジェクトメンバーは所属部署が異なるため、各自の業務もありメンバー全員が集まる機会が少なく、プロジェクトを進める上で、試行錯誤の連続だった。
- ・電子回覧等により話し合いや情報の共有をさらに多く行えることが望ましかった。

9. 今後の事業の目標・展開等

- ・今後もオリジナルイラスト入り婚姻届、婚姻記念カードの配布等を行い、区民の方々に喜んでいただきながら若林区の魅力の発信を行っていく。

平成 30 年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区中央市民センター

2. 事業名

若林区の映像保存・活用事業

3. 事業の概要

- ・若林区中央市民センターで活動している写真撮影ボランティアとともに、復興への取り組みや豊かな地域資源、史跡・旧跡の残る街並み、地下鉄東西線の開業に伴い変化していく区内の情報を収集・記録し、保存する。
- ・収集した情報を活用し、総務課と協力して次のことを行い、若林区の魅力を発信する。
- ・市政だより若林区版に「若林の点描」を掲載。
- ・「若林の点描」掲載写真等を使用したパネル展示
- ・区内の四季の風景の写真を掲示板に掲示

4. 事業の目的・ねらい

- ・被災した地域の復興への歩みを記録していくことで、地域の変化していく状況を将来に伝える資料とする。
- ・地域で活動するボランティアの協力を受けて変化していく街の様子のほか、あらためて地域資源、史跡・旧跡などにも目を向けて収集した情報を発信し、若林区の魅力の再発見につなげていく。

5. 事業の成果・効果

- ・市政だよりへの掲載記事のタイトルを「若林の点描」に変更したことで、あらためて地域資源などに目を向けることで収集する情報の対象を広げることができた。
- ・収集した情報の市政だよりへの掲載やパネル展示、掲示板での掲示を行うことで、より広く発信することができた。
- ・写真撮影ボランティアが掲載内容の提案や撮影依頼の連絡を行うなど事業への関わりを深めることができた。
- ・教育局生涯学習支援センター主催講座「地域情報サポーター養成講座」の中で、「地域の魅力発信！写真を撮って伝えよう！」の回に本事業担当者が講師として招かれ、「若林の点描」の記事作成や写真につけるキャプションの表現などで気を配っていることとのテーマで講話を行い、参加者に事業を周知する機会とすることができた。

6. 事業費（決算額）

98,000 円（予定）

7. 実施状況

実施時期	実施内容
随時	区内の情報収集・記録
平成 30 年 4 月～	市政だより若林区版に「若林の点描」を毎月掲載
平成 31 年 2 月～ 3 月	若林区役所及び若林区文化センターにて「若林の点描」写真パネル 展開催
平成 31 年 3 月	若林区中央市民センター掲示板に区内の四季の風景写真を掲示

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

<ul style="list-style-type: none"> ・季節や開催時期の決まっているイベント等以外の事業について、写真撮影ボランティアが適切な時期に撮影が行えるように早めに情報を収集し、提供すること。 ・収集した情報の分類・整理が少しずつ進んでいるので、過去に撮影した写真を区役所ホームページに掲載するなど情報発信の機会を増やす取り組みを検討すること。
--

9. 今後の事業の目標・展開等

<p>（目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市政だよりへの掲載やパネル展示以外にも収集した情報をより広く発信する機会を持つために、収集した情報を活用しやすいように分類・整理することを目指す。 ・市政だより若林区版掲載の記事「若林の新風景」を「若林の点描」と変更したことで、撮影対象をより幅広く設定することが可能となったため、新しい視点も意識しながら地域資源や史跡、旧跡にも着目し、引き続き若林区の新たな魅力の再発見につなげていく。 ・次年度は、「若林の新風景」や「若林の点描」で取り上げた写真を中心に「リーフレット」を作成して市民センター等で配布することを予定している。
--

平成30年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区中央市民センター（仙台市嘱託社会教育主事研究協議会若林区部会と共催）

2. 事業名

若林区地域学校連携推進会議

3. 事業の概要

(1) 日時 平成30年8月23日（木）14:00～17:00

(2) 会場 若林区役所6階ホール

(3) 参加者 96名

}	小中学校・高等学校	地域連携担当者，嘱託社会教育主事
	区役所	区長，副区長，保健福祉センター所長，各部・課長
	職員	
	市民センター	館長，職員
	図書館・文化センター	館長，職員
	地域	学校支援地域本部（スーパーバイザー・コーディネーター等）

(4) 内容

① 全体会

〔事例紹介〕「障害者理解における取組について」：若林区障害高齢課障害者支援係
差別解消法担当相談員

〔活動紹介〕「地域連携担当教員の業務について」：仙台市教育委員会学びの連携推進室
主任指導主事

② エリア別情報交換会

各中学校区（五橋・南小泉中学校区は2グループ）に分かれて情報交換

4. 事業の目的・ねらい

- ・若林区内の学校，市民センター，区役所，学校支援地域本部，社会教育施設など地域で活動する各種団体が相互理解を深め，地域課題を共有する。
- ・若林区内の学校，市民センター，区役所，学校支援地域本部，社旗教育施設など地域で活動する各種団体が連携を推進し，地域における豊かな教育活動を創出するための具体的な取り組みにつなげていく。

5. 事業の成果・効果

- ・嘱託社会教育主事研究協議会若林区部会の嘱託社会教育主事と区役所職員が打合せを持つことで，事例発表のテーマ設定や会議進行についても両者の考えを共有しながら運営できたこと。
- ・昨年度の本会議後の連携の取り組み状況について集約した資料を事前に配布し，確認いただいた上で情報交換会を持ったことで，具体的な話し合いにつながったこと。

・小中学校の参加者からは、「他の学校の地域連携担当の先生やスーパーバイザーの方、市民センターの方と顔を合わせることができ、とてもよかった。このような機会があり貴重な経験となった。」「同学区の方々と会って話せたことで、これからも連携が取りやすくなったと感じた。他学区の取組も参考にして、より地域で活躍する生徒の活動のチャンスを作っていきたい。」などの意見をいただいた。

・連携の輪が年々広がっていると感じた。顔の見える関係づくりができてとても話しやすい。今後の連携の参考になることがたくさんあったという意見が出され、当該会議の必要性が感じられたこと。

・区役所職員からは「学校の先生方と区役所の業務の意見交換ができて、今後の業務に活かせると思った。」、先生方からも「学校に戻り、今日学んだことを職員で共有できるようにするにはいけないと感じた。学校内だけでは得ることのできない視点にふれさせていただいた。」などの意見も寄せられ、各機関が関係性を重視し、連携を推進していこうということが感じられたこと。

6. 事業費（決算額）

29,680円（消耗品費，食糧費）

7. 実施状況

実施時期	実施内容
H30.8.1(水)	共催事業検討会（嘱託社会教育主事と区役所職員との事前打合せ）
H30.8.23(木)	若林区地域学校連携推進会議

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

(1) 課題

① 具体的な動きの把握と取り組み事例の蓄積について

昨年度の会議終了後に行った各団体間での「具体的な連携の取り組み状況」について、アンケートを行いまとめた資料が有効であると確認できたことから、今後も取り組み状況の実施例を蓄積し、提供していくことが必要。

9. 今後の事業の目標・展開等

(1) 目標

① 会議でできた顔の見える関係を生かした参加団体間の「具体的な連携・動き」づくりの継続。

② 「具体的な連携の取り組み」の実施と実施例の蓄積・提供。

(2) 展開

① 嘱託社会教育主事研究協議会若林区部会と区役所職員で、会議の内容、日程等検討する打ち合わせは次年度以降も継続予定。

② 「若林区地域学校連携推進会議」は次年度以降も継続予定。

平成 30 年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区中央市民センター

2. 事業名

ボッチャをとおした区民地域交流促進事業

3. 事業の概要

- ・ユニバーサルスポーツ「ボッチャ」の運営スタッフ養成講座を開催することで、競技の普及及び運営スタッフの育成を図る。
- ・「ボッチャ」用具を購入し、区内市民センターへ貸出しを行う。
- ・地域への出前による「ボッチャ交流会」を開催する。
- ・区内市民センターと共催で「ボッチャ」を活用した各種講座を開催する。

1 若林区中央市民センター 「ユニバーサルスポーツ・ボッチャ運営スタッフ養成講座」（7回連続講座）

ユニバーサルスポーツへの理解とボッチャを体験しながらルールやゲームの進め方を学ぶ。

2 若林区中央市民センター 「地域げんき倶楽部」（出前講座）

復興公営住宅に入居された方々が地域になじみ、円滑な日々の生活を送ることができるよう引き続き支援を行う。毎月1回、区家庭健康課、社会福祉協議会若林区事務所及び地域包括支援センターと連携し、役割分担しながら講座を開催している。

4. 事業の目的・ねらい

- ・障害の有無や体力・体格差などに関係なく、一緒に実践できるスポーツ「ボッチャ」を活用し、地域間交流や世代間交流を図り、地域づくりの一助とする。

1 若林区中央市民センター 「ユニバーサルスポーツ・ボッチャ運営スタッフ養成講座」

- ・ボッチャのルールや競技の進め方を学ぶ機会を提供し、地域への普及と運営の担い手を育成する。

2 若林区中央市民センター 「地域げんき倶楽部」

- ・介護予防や健康に関する講話、日常生活にも取り入れられる体操やレクリエーション等を実施する。誰もが参加しやすい環境づくりを行い、地域での交流を支援する。

5. 事業の成果・効果

<p>1 若林区中央市民センター 「ユニバーサルスポーツ・ボッチャ運営スタッフ養成講座」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7回連続の講座としたことで、ボッチャのルールやゲームの進め方を理解できる内容とすることができた。 ・定例で開催されているボッチャクラブへの参加や20チームが参加して行われたボッチャ若林区民大会での審判体験の実践をとおして受講者の学習意欲を高めることができた。
<p>2 若林区中央市民センター 「地域げんき倶楽部」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャについて誰でも気軽に参加できるスポーツであるとの理解が進み、地域の方から実施してほしいとの要望が出てくるようになった。 ・昨年度のボッチャ体験に参加した方がボッチャクラブやボッチャ若林区民大会に参加するなど、地域での活動の機会を広げる一助となった。

6. 事業費（決算額）

<p>1 若林区中央市民センター 「ユニバーサルスポーツ・ボッチャ運営スタッフ養成講座」</p> <p>187,000円（予定）</p>
<p>2 若林区中央市民センター 「地域げんき倶楽部」</p> <p>16,000円（予定）</p>

7. 実施状況

1 若林区中央市民センター 「ユニバーサルスポーツ・ボッチャ運営スタッフ養成講座」

実施時期	実施内容
9月29日（土）	講話：「ボッチャのルールを学ぼう」
10月13日（土）	実技：「ボッチャ体験」
10月27日（土）	実技：「ボッチャのゲームの進め方を学ぼう」①～コート作りについて～
11月10日（土）	実技：「ボッチャのゲームの進め方を学ぼう」②～審判について～
11月17日（土）	実技：「試合運営を体験－試合出場及び審判体験」～ボッチャ若林区民大会参加～
11月24日（土）	実技：「ボッチャ応用編」
12月1日（土）	まとめ：「交流会」

2 若林区中央市民センター「地域元気倶楽部」

実施時期	実施内容
8月3日（金）	ボッチャ体験
2月13日（水）	ボッチャ体験

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

1 若林区中央市民センター 「ユニバーサルスポーツ・ボッチャ運営スタッフ養成講座」

- ・昨年度実施した「ユニバーサルスポーツ・ボッチャで交流ーみんなでつながろうー」に参加した受講者に対してのスキルアップの講座として実施したが、地域での展開に向けた運営スタッフとして活動するまでには至らなかった。
- ・引き続き、受講者を増やす取り組みとともにゲームでの審判体験の機会を増やしたり、ボッチャ若林区民大会の運営に携わるなどの実践をとおして地域で活動できるスタッフを育成する講座を継続していく必要がある。

2 若林区中央市民センター 「地域げんき倶楽部」

- ・少しずつではあるが老人クラブなどでの「ボッチャ交流会」の開催ができてきていることから、さらに地域での開催に向けて広報にも力を入れていく必要がある。
- ・参加者の中から運営スタッフを養成していくための取り組みも必要である。

9. 今後の事業の目標・展開等

今年度実施してきた下記の2事業以外にも「ボッチャをとおした区民交流促進事業」として、区内地区市民センターとも連携して出前で競技の普及に向けた講座の開催を提案している。

1 若林区中央市民センター 「ユニバーサルスポーツ・ボッチャ運営スタッフ養成講座」

- ・今年度の講座受講者に対して、さらなるスキルアップを図るために実践を多く取り入れるなど内容や回数も検討しながら引き続き運営スタッフとして活動できるように育成する講座を開催する。
- ・講座への参加者を増やしていくための取り組みにも力を入れていく。

2 若林区中央市民センター 「地域げんき倶楽部」

- ・誰にでも参加できる「ボッチャ」競技の出前講座を地域に広げていくことで、地域での交流を支援していく。
- ・住民自らが運営できるように養成する内容も少しずつ講座の中に取り入れていく。

平成 30 年度 区民協働まちづくり事業（企画事業）実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（まちづくり推進課）

2. 事業名

第 30 回 若林区民ふるさとまつり

3. 事業の概要

区民による実行委員会が主体となって、区民の総合的な交流の場を提供し、地域の交流推進と活性化を図る。区民の文化芸術活動の発表（ステージ・作品展・学校じまん）や地域資産を活用した企画（ザリガニ釣り・ザッコすくい・堀なか探検・伝統工芸館、若林の文化財展）、地元物産の販売などを行う。

4. 事業の目的・ねらい

若林区内における総合的な交流の場を提供することにより、区民意識の高揚や地域の活性化を図るとともに、区民協働によるコミュニティづくりを目指す。

5. 事業の成果・効果

「平成とともに 30 回 あつい想いをつなげよう」のテーマのもと、平成最後の「若林区民ふるさとまつり」を 10 月 21 日（日）9 時～15 時に実施した。まつりを盛り上げる様々な企画や広報活動を強化し、今回で第 30 回となる「ふるさとまつり」を PR したことで当日は多く来場者があった。

●新規企画

・「ザッコすくい」

若林区域に生息する雑魚を子ども達に身近に感じてもらう企画。子ども達が自ら魚をすくって観察する体験コーナーで、ザリガニ釣りとは並ぶ人気企画となった。

・「区制 30 年記念大会 子どもすもう」

江戸時代の名横綱「谷風」の出身地域でもあり、相撲と深い関わりがある歴史を持つ若林区で、相撲を通じて子どもたちの健やかな成長を促す企画。事前公募した 30 名の子ども達の熱い取り組みに、来場者の声援が飛び交う企画となった。

・「歴代ポスター展」

若林区制となった平成元年から始まった「若林区民ふるさとまつり」。区民の手による区民まつりの歴史を第 1 回～30 回ポスターを展示することで PR。変わりゆく時代を懐かしみながら見学する姿が見受けられた。

●広報活動の強化

・事前告知

ポスターは、七郷中学校創作部に若林区やまつりをイメージしたイラストの協力を

頂いた。完成したポスターを地下鉄駅構内の地域ボードや各町内会掲示板、協賛企業で掲示してもらう他に、七郷中学校創作部のイラスト作製の様子等も若林区HPに掲載し、区民によるまつりであることをアピールした。また、「歴代ポスター展」を若林区役所6階ギャラリーコーナーで9月12日(水)～10月19日(金)に実施、若林区HPにも掲載した。その他ラジオ出演するなど、事前告知を強化した。

・協賛企業に係る表示変更

まつりに賛同して頂ける企業を増やす取り組みの一環として、当日配布するパンフレットおよび協賛看板、事後報告のHPなどで、協賛金額に応じて掲載する文字の大きさを変える等の工夫を行い、昨年度より15社が増額し8件の新規企業の協賛を得た。

・事後報告

まつりに来場できなかった方に、次年度への呼び込みを兼ねて、仙台市政だより12月号及び若林区HPで開催報告を掲載した。また、好評だった「学校じまん」企画ののぼり旗や一高書道部の作品(縮小したもの)を若林区役所6階ギャラリーコーナーに11月7日(水)～12月7日(金)の期間で展示した。まつりの様子はラジオでも放送され、次年度のまつりへつながる取り組みとなった。

6. 事業費(決算額(未確定))

5,060,601円(うち仙台市共催負担金 4,050,000円)

7. 実施状況

実施時期	実施内容
H30 5月18日(金)	第1回実行委員会(全体会)
6月19日(火)	第2回実行委員会
7月27日(金)	第3回実行委員会
8月28日(火)	第4回実行委員会
9月3日(月)	フリーマーケット参加区画公開抽選会
9月12日(水)	宮城野区との情報交換会
9月26日(水)	おまつり広場出店者説明会
9月27日(木)	わたしの作品展出展者説明会
9月29日(土)	フリーマーケット参加者説明会、ステージ発表参加者説明会
10月3日(水)	第5回実行委員会
10月21日(日)	第30回若林区民ふるさとまつり開催
12月4日(火)	第6回実行委員会(全体会)
H31 2月14日(木)	第7回実行委員会
H31 8月3日(金) ～12月2日(日)	スポ・レク・フェスタ2018開催
その他班会議	
<ul style="list-style-type: none"> ・庶務班会議4回 ・広報班会議3回 ・わたしの作品展班会議7回 ・特別企画班会議7回 ・健康づくりフェスティバル実行委員会5回 	

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

今年度は収入を増やす取り組みを行う一方で、支出も見直しながら事業を行った結果課題でもあった財政面も立て直しが図れた。また平成最後のまつりにふさわしい事業となるよう、新規事業にも力をいれ、子どもから大人まで楽しめるまつりとなった。

会場となっている区役所敷地内の整備工事に伴うレイアウト変更や新たな人材の確保、財政的な見直しを継続するなどの課題はあるが、人材面では次年度に向けて若手実行委員が7名増える予定である。引き続き課題解決に努め、皆が楽しめるまつりを継続していきたい。

9. 今後の事業の目標・展開等

新たな元号になって初めてのまつりとして、子どもから大人まで参加者も来場者も楽しめるまつりになるよう、実行委員会で企画・運営を行う。

平成 30 年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

まちづくり推進課

2. 事業名

地域資源活用事業（六・七郷堀サポーターズ）

3. 事業の概要

参加メンバー一人ひとりの知識や経験を活かし、六・七郷堀の歴史や環境・景観、暮らしとの関わりを調べ、堀の役割と大切さ・その魅力を多くの人と分かち合う方策を企画実行する。「六・七郷堀サポーターズ」は、市民の視点から身近な水辺空間である六・七郷堀について考えるボランティアとして平成 18 年度に公募を行い、以降随時参加者を募集、平成 31 年 2 月現在の登録メンバーは 12 人。

（平成 30 年度の活動）

- ① 定例会（おおよそ月 1 回）の実施（2 月末時点で 10 回）
- ② 一般参加者を募集しての堀散策イベント「堀 DAY さんぽ」の開催（4 月、6 月、9 月の計 3 回実施）
- ③ メンバーのみでの非公開フィールドワークの実施（4 月、9 月の計 2 回実施）
- ④ 「第 30 回若林区民ふるさとまつり」特別企画のひとつとして出展（「ササ舟づくり体験」「堀なかツアー」の実施、堀に生息する生き物の展示、活動紹介パネル展示、堀 DAY マップの配布）
- ⑤ 講座「今日は、堀 DAY 参観日」の開催
- ⑥ 区役所 1 階展示コーナーの管理（水槽「七郷堀にすむ魚」）
- ⑦ メンバー同士の自主的な勉強会の場として、定例会の開始 30 分前より会議室を開放。各メンバーの個人的な活動や知識を共有する時間となっている。
- ⑧ 平成 31 年 4 月に開催する「堀 DAY さんぽ」に先立ち、当日に歩く水路（七郷堀）の美化清掃を行う。

4. 事業の目的・ねらい

環境、景観、歴史といった側面で若林区の貴重な財産である六・七郷堀を活かし、まちづくりや地域との連携に結びつく事業を行う。

5. 事業の成果・効果

- ① 堀散策イベント「堀 DAY さんぽ」を 4 月、6 月、9 月の計 3 回開催。一般参加者を市政だよりで募集し、計 57 名が参加した。アンケートからは、参加者の水路や郷土史への興味を促進できたことが伺える。
- ② 「若林区民ふるさとまつり」で実施した「堀なかツアー」には 30 名以上が参加した。生き物の展示やササ舟づくりなどには、多くの来場者（主に児童）が興味を示し、親水意識の向上につながった。

- ③ 3月9日に若林区中央市民センターセミナー室において、講座「今日は、堀 DAY 参観日」を開催した。大学教授による水路にまつわる講義や、約 4m四方の巨大マップを活用したグループワークなどで六郷堀・七郷堀の魅力を紹介した（参加者 18 名見込み）。
- ④ 区役所 1 階の展示コーナーでは魚を楽しみに来庁する区民の姿が見られ、堀の PR 効果があった。
- ⑤ 定例会及びイベントへの河川課・農林土木課の参加が定着し、情報共有や相互の協力により、お互いの事業をより効果的に進めることができた。

6. 事業費（決算額）

報償費	……	50,000 円	需用費	……	214,000 円	役務費	……	62,000 円
使用料	……	20,000 円	（すべて未確定）					

7. 実施状況（太字はイベント）

実施時期	実施内容
平成 30 年	
4 月 8 日	堀 DAY さんぽ（河原町～文化町）19 名参加
4 月 12 日	定例会①
4 月 22 日	非公開フィールドワーク
5 月 11 日	定例会②
6 月 8 日	定例会③
6 月 30 日	堀 DAY さんぽ（沖野・霞目方面）15 名参加
7 月 11 日	定例会④
9 月 14 日	定例会⑤
9 月 29 日	堀 DAY さんぽ（蒲町～若林区役所）23 名参加
10 月 12 日	定例会⑥
10 月 21 日	若林区民ふるさとまつり出展（特別企画） 「ササ舟づくり体験」「堀なかツアー」
11 月 9 日	定例会⑦
12 月 7 日	定例会⑧
平成 31 年	
1 月 11 日	定例会⑨
2 月 8 日	定例会⑩
3 月 9 日	講座「今日は、堀 DAY 参観日」18 名参加見込み
3 月 22 日	定例会⑪（予定）
3 月 31 日	七郷堀清掃（予定）

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

- ・登録メンバーは 12 人（平成 31 年 2 月現在）だが、それぞれの事情により、実際に活動に参加しているのは 7 人程度。
- ・堀の魅力発信と新規メンバー勧誘を兼ねてイベントを開催してきた。イベント内容自体は大変好評だが、参加者を担い手側に引き込むことの難しさを感じている。

- ・ 堀が流れる街なかの住民との連携を模索しているが、かつてと違って生活面で堀を活用することが無くなったうえ、マンションなどに住む新住民も増え、堀に愛着や関心を持つ住民がほとんどいないのが実情。
- ・ メンバーの知識量に差があり、イベントでの講師役をいつも特定のメンバーが務めるなど、個人への負担が大きい。

9. 今後の事業の目標・展開等

- ・ 堀清掃など、地道ながら地域にもメリットのある活動を通して、住民のなかに賛同者を増やしていきたい。
- ・ 六・七郷堀を活動のフィールドとする市民団体が結成され、活動を始めようとしている。イベント開催のノウハウを提供したり、互いの事業に協力し合ったりすることで、発展的な流れが生まれることを期待する。但しメンバーの中には、ここ数年で定着したイベントを続けていければよいという、変化を望まないメンバーもいる。

平成 30 年度 区民協働まちづくり事業（企画事業）実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（まちづくり推進課）

2. 事業名

地域メディアの活用による創造プロジェクト（「ラヂオはいらいん若林」制作・放送）

3. 事業の概要

地域の魅力と情報を発信するため、区民スタッフがコミュニティ FM（ラジオ 3）の協力を得ながら、番組制作・放送する。

4. 事業の目的・ねらい

区民とコミュニティ FM 放送との協働・連携による地域情報番組づくり及び区民に向けて公開放送を通して広く区民のコミュニティ意識を高め、さまざまな角度から地縁に対する再認識と、ともに進めるまちづくりへの気運醸成を図る。

5. 事業の成果・効果

1. 番組作りのスタッフとして幅広い世代や職業の区民に参画・協力を求め、若林区における地域コミュニティへの積極的な参加促進と、地域活動の新しい担い手の創出を強く意識し活動している。
2. まちづくり協議会の PR と人的ネットワークの拡大、及びコミュニティ活性化に向けて取り組みを強めるステップが図れた。
3. 区民スタッフが、自らの情報網や人脈を生かして番組内容を企画。地域で活動する区民の姿や思いにフォーカスをあて、記録として残すことができた。
4. ラヂオはいらいんの放送が今年で 10 年を経過した。「10 年も番組をつくり続けることは大変なこと。昔の良さが残る若林区地域の利だね」とマスコミにも注目されている。

6. 事業費（決算額）

834,426 円（仙台市助成金 834,426 円）（未確定）

7. 実施状況

実施時期	実施内容				
5月23日	第1回全体会議（放送内容の決定）				
9月5日	第2回全体会議（放送内容の決定、取材進行管理）				
11月28日	第3回全体会議（放送内容の決定、取材進行管理）				
2月6日	第4回全体会議（放送内容の決定、取材進行管理、1年の反省、次年度の企画に関する方向性等について）				
<ul style="list-style-type: none"> 放送期間：平成30年7月1日～平成30年3月23日 本放送：第1・第3土曜日午前10時～10時30分 再放送：第2・第4土曜日午前10時～10時30分 制作本数：18本 					
No.	放送日	テーマ	No.	放送日	テーマ
1	7/7 7/14	河原町商店街振興組合主催「河原町まち歩き」	10	11/17 11/24	ねこまつり
2	7/21 7/28	第25回若林区合唱のつどい	11	12/1 12/8	新寺こみち市
3	8/4 8/11	「ちよっこら」農業親子体験	12	12/15 12/22	若林わくドキまち歩き
4	8/18 8/25	「the day-play concept store」	13	1/5 1/12	声の年賀状 ・佐藤 正実さん(アーカイブ) ・針生 庸一さん(旧針惣旅館所有者) ・広瀬 剛史さん(せんだいわらアート実行委員会)
5	9/1 9/8	旧荒浜小学校交流会	14	1/19 1/26	atelier ハナイツトキ
6	9/15 9/22	海岸施設紹介	15	2/2 2/9	「米工房 米夢」
7	10/6 10/13	・せんだいわらアートオープニング ・竹であそぶ(せんだいメモリアル交流館)	16	2/16 2/23	・駄菓子屋「かみふうせん」 ・「蔵 de ひなまつり」
8	10/21 10/10	のびすく若林一周年(お誕生祭南材子育てサロン)	17	3/2 3/9	(仮)旧「針惣旅館」六代目
9	11/3 11/10	第30回若林区民ふるさとまつり	18	3/16 3/23	(仮)荒浜の復興親子(荒浜めぐみキッチン)

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

安定した運営や新しいアイデアを積極的に取り入れていくためにも、引き続き新たな人材の発掘及び育成に力を入れる必要がある。また、番組の知名度を向上させ、より多くの区民に番組を視聴してもらうための工夫が必要である。

ラジオはいらんの視聴拡大が課題であったが、今年は過去の放送分についてきちんとホームページに掲載するなど、一定の成果があったものと思われる。

9. 今後の事業の目標・展開等

将来の区の財産として記録的価値のある音のアーカイブとすることを旨とする。また、その番組制作活動を行うことを通じて参加スタッフの地域コミュニティへの参加やコミュニケーション能力の向上をはかり、当該事業だけに終わらせない地域活性化に繋げるものとした。

平成 30 年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（まちづくり推進課）

2. 事業名

第 25 回「若林区合唱のつどい 2018」

3. 事業の概要

若林区文化センターを会場として、区内の小学生から大人までが参加する合唱の発表会を若林区合唱のつどい実行委員会（合唱連盟わかばやしと若林区まちづくり協議会で構成）を組織し開催した。

- ・ 開催日：平成 30 年 7 月 7 日（土）
- ・ 場 所：若林区文化センター ホール

4. 事業の目的・ねらい

仙台市若林区文化センターを文化発信の拠点として、若林区内の小・中・高の合唱団や吹奏楽部、「合唱連盟わかばやし」加盟の団体等が参加し、合唱を主体とした音楽祭を開催することで、地域の方々との触れ合いや交流を図るとともに、地域文化活動の活性化を目指す。

5. 事業の成果・効果

「合唱連盟わかばやし」に加盟する 12 団体をはじめ、区内の小・中学校、高等学校の参加を得て、合唱を主体とした音楽祭が盛大に行われた。特に、今年は第 25 回記念と銘打ち、特別企画として、仙台在住アーティストの伊東洋平氏に参加していただき、高校生とのコラボや全体合唱などを大いに盛りあげていただいた。また、六郷小学校の「太鼓」や全体合唱「たなばたさま」でのオープニングをはじめ、公募で結成した区民合唱団「^{そら}笛」や聖ウルスラ学院英智高等学校の吹奏楽部による特別演奏なども企画し好評を得た。

プログラム印刷などの準備や当日の運営は、参加団体から運営委員を選出してもらい、企画・準備・運営を協力して行うことができた。

6. 事業費（決算額）

512,000 円（うち仙台市助成金 442,000 円）（未確定）

7. 実施状況

活動年月日	活動実施内容
3月22日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」の募集チラシ印刷
3月23日	運営委員会
4月1日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」の募集チラシ施設送付 市政だより「区民合唱団『 ^{そら} 宙』」の募集
4月2日～5月1日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」の受付 小・中・高への参加案内通知
4月11日	役員会
4月26日	運営委員会
5月7日	開催チラシ印刷
5月14日	公共施設等チラシ配布依頼
5月24日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第1回)
5月26日	参加団体全体会議
6月1日	市政だより(開催のお知らせ) 区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第2回)
6月2日	来賓の案内通知
6月7日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第3回)
6月9日	運営委員会
6月14日	プログラム校正 区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第4回)
6月16日	プログラム印刷
6月21日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第5回)
6月23日	文化センターとの打合せ
6月26日	区民合唱団「 ^{そら} 宙」練習(第6回)
6月30日	会場準備(山台組み・折込作業等)・リハーサル
7月6日	合唱のつどい本番
7月7日	運営委員会
7月23日	

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

合唱連盟わかばやしに加盟する団体の高齢化が進んでおり、参加する団体数が減少傾向にある。

9. 今後の事業の目標・展開等

これまでも区内の小・中・高のすべてに案内を出し、出演を呼び掛けてきたところであるが、合唱が盛んな若林区をアピールするため、今後も学校からの参加を増やすよう働きかけていきたい。

平成 30 年度 区民協働まちづくり事業（企画事業）実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区連合商店会 春らんまん実行委員会（まちづくり推進課）

2. 事業名

わかばやし区春らんまん

3. 事業の概要

28 回続けてきた春のイベント。区内の 7 商店会が加盟する「若林区連合商店会」が開催するおまつりで、地域と商店街が一緒になり、地域全体が元気になるまちづくりにつながる事業。

- 開催日時：平成 30 年 4 月 15 日（日曜日）10 時～15 時
- 会場：若林区役所特設会場（若林区区役所南側駐車場）
- プログラム内容
 - ・開会式 紅白もちまき
 - ・和太鼓（連坊太鼓の会「雛鼓」）
 - ・すずめ踊り（六郷すずめっこ）
 - ・津軽三味線（つくだ 寿雪）
 - ・マジックバルーン（ワン・プラス・ワン）
 - ・和太鼓と獅子舞（めとう会）
 - ・昭和歌謡（M I E）
 - ・ボーカルユニット（ミラクル☆3 兄弟）
 - ・ビンゴ大会 他

4. 事業の目的・ねらい

- ①地元商店街と地域が一緒になって行う春まつりとして盛り上がり、地域に根ざしたまちづくりを目指す。
- ②個人商店主の元気さや個性に触れてもらえるような企画を行い、地域の方が商店街の楽しさを再発見してもらう機会を創出する。

5. 事業の成果・効果

- ①地下鉄 3 駅（薬師堂駅・連坊駅・河原町駅）の地域情報ボードにポスターを掲示した他、周辺 13 町内会や南小泉小学校・南小泉中学校にチラシの回覧やポスター掲示を依頼し、地域の協力を得た広報活動を行った。また河北ウィークリー別冊「地下鉄さんぽ」や「ぼど」等の情報紙に掲載、OH！バンデスに出演するなど、広報に力を入れた結果、来場者が増えた。
- ②イベントを実施することで、「各商店会が力と知恵を出し合うことでお客さんに来て頂けるような街をつくれる」ことが実証できた。

6. 事業費（決算額）

563,644 円（うち仙台市助成金 300,000 円）

7. 実施状況

実施時期	実施内容
平成30年 1月25日	第1回実行委員会（出席者8名）。
1月31日	出演者と打合せ
2月22日	第2回実行委員会（出席者10名）。
	河北ウィークリーせんだい別冊「ちかてつさんぽ」掲載
3月2日	出店依頼と各商店会の販売品目を確認
3月3日	南小泉北部連合町内会他13町内会長へ「回覧依頼・会場図」を郵送
3月6日	B4チラシ5000枚印刷終了 A3ポスター100枚印刷終了
3月7日	朝市へ出店依頼。佐藤会長へチラシ・説明文・会場図持参
3月8日	(株)ぱど「4月1日号記事掲載内容」依頼
3月9日	駐車承認書の原稿作り イベント保険(レクリエーション保険)内容確認 南小泉小学校・中学校の協力分チラシを担当者へ
3月10日	聖ウルスラ学園・若林区文化センター・近隣住宅へ挨拶 地下鉄地域情ボード(連坊・薬師堂・河原町)へ掲載申請
3月12日	A3の9倍(9分割)ポスターを3部作成 南小泉北部連合町内会他13町内会長へチラシ他持参する。
3月15日	第3回実行委員会（出席者10名）
3月17日	宮城県議会議員・仙台市議会議員宛に参加状を郵送する 仙台市若林区長・仙台商工会議所会頭・関係町内会会長宛に招待状を郵送。
3月24日	出店者へ必要書類を取りに来てもらう (チラシ・会場図・駐車承認書・出店注意事項・チケット用袋)
3月27日	仙台市若林消防署へ書類を提出する。 町内会長に案内状他郵送する。
4月3日	第4回実行委員会（出席者10名）
4月9日	OH! バンデス出演(17時10分～) 河北新報から夕刊記事内容確認の連絡
4月14日	本部備品・ビンゴゲーム賞品・のぼり20本準備
4月15日	わかばやし区春らんまん当日
4月16日	会場周辺の清掃と点検(5:20～6:00)

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

来場者を増やすことだけを考えれば、駐車場の問題は大きいと思う。しかしながら、公共機関が充実している都市部での会場では、駐車場が無くても充分開催はできるとも感じている。広報の方法や地域全体で協力し合いながら、これからもイベントをつくりあげたい。

9. 今後の事業の目標・展開等

地域に密着したイベントを地域の方々の協力を得ながら開催し、イベントのなかで改めて地域商店街の必要性を、特に若い人にアピールできるように頑張っていきたい。

平成 30 年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

広瀬川灯ろう流し実行委員会 （まちづくり推進課）

2. 事業名

第 29 回広瀬川灯ろう流し “光と水とコンサートの夕べ”

3. 事業の概要

広瀬川の河川敷（宮沢橋～広瀬橋）に特設会場を設営し、野外コンサート、花火打ち上げ、灯ろう流し、縁日コーナーを開催する。

- ・ 開催日 平成 30 年 8 月 20 日（日）
- ・ 開催時間 午後 3 時～午後 9 時
- ・ コンサート 地元の高校生による吹奏楽の発表その他公演
- ・ 花火 午後 8 時 00 分頃～午後 8 時 30 分頃

4. 事業の目的・ねらい

市民の誇りである広瀬川の歴史や文化にふれることにより、広瀬川の自然を認識する。また同時に催事を通して市民の交流の場としてコミュニティを図り、地域（特に太白区・若林区）の活性化につなげたい。

5. 事業の成果・効果

今回もコンサートや花火、縁日等を楽しみに約 4 万人の来場者があった。コンサート第一部及び第二部では、宮城県仙台南高等学校、常盤木学園高等学校による吹奏楽や宮城県仙台三桜高等学校による合唱など地元の高校生が活躍できる機会となった。また毎年好評の花火打ち上げは、鎮魂とともに夏の終わりを感ずることのできる企画として大いに盛り上がりを見せるイベントとなった。

6. 事業費（決算額）

7,663,429 円

（うち仙台市助成金 2,836,000 円
※若林区 1,418,000 円 、 太白区 1,418,000 円）

7. 実施状況

実施時期	実施内容
平成30年 6月 5日	事務局担当者会議
7月13日	第1回実行委員会全体会議
7月26日	設営業者打合せ
8月 6日	警備等安全対策会議
8月20日	第29回広瀬川灯ろう流し“光と水とコンサートの夕べ”当日
8月21日	後片づけ
11月 5日	事務局会議
11月21日	監査会
未定	全体会議

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

資金難の折、今回は河原町・長町地域において大規模な募金活動を行い、市民の方々の多大な支援を頂きながら開催ができたことで、この事業が地域のイベントとして受け入れられていると再認識できた。特に今年初めてクラウドファンディングを導入し、目標の100万円以上を達成した。好評である花火に関しては、安全を第一に各関係者との協力のもと事故等のないようにすすめていきたい。

9. 今後の事業の目標・展開等

太白・若林両区の夏の催事として今後も活動を続けてまいりたい。

平成 30 年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（事務局 若林区まちづくり推進課）

2. 事業名

若林区魅力発信事業（若林わくドキまち歩き）

3. 事業の概要

平成 27 年度に「地下鉄東西線開業イベント実行委員会」が、28 年度と 29 年度には「わくわくドキドキ 5 感で楽しむ若林実行委員会」が企画・開催していたまち歩きイベントを、平成 30 年度は「若林区まちづくり協議会」が引き継いだ。

協議会の会員をはじめとした市民スタッフが企画した、全 2 回のまち歩きを開催した。

4. 事業の目的・ねらい

若林区への愛着や興味を促進させるとともに、地域の魅力を体感できるイベントとして「若林わくドキまち歩き」を開催する。（平成 30 年度若林区まちづくり協議会事業計画より）

5. 事業の成果・効果

毎回、定員に対し 2 倍近い応募があり、仙台市内からだけでなく、名取市や多賀城市、東京都から参加を申し込まれることもある。参加者数（スタッフ除く）は、第 1 回が 26 名、第 2 回が 28 名。

区の魅力を十分に引き出した企画内容で、参加者アンケートでも好意的な意見が多数寄せられている。

11 月に開催した「震災遺構荒浜小学校コース」の参加者からは、「これまでなかなか足が向かなかったが、これを機会に訪れようと思った。今の様子を自分の目で見られてよかった」という感想をいただいた。これを受けスタッフもまち歩きを行うことの意義を再認識し、今後のモチベーションとなった。

6. 事業費（決算額）

収入

繰越金（前述の実行委員会より）……95,514 円 仙台市補助金……100,000 円

参加料……27,000 円

支出

保険料…… 4,200 円 消耗品費……114,696 円 賃借料……46,440 円

食糧費……31,580 円 講師謝礼……3,000 円 雑費……432 円

7. 実施状況

実施年月日	実施内容
平成30年9月8日	『四代藩主綱村公と若林区コース』 経路：地下鉄薬師堂駅→薬師堂ガイダンス施設→小泉屋敷跡（若林区文化センター）→永勘染工場→愛染明王堂
平成30年11月10日	『震災遺構荒浜小学校コース』 経路：地下鉄荒井駅→深沼海岸→震災遺構仙台市立荒浜小学校→海岸公園冒険広場→せんだい農業園芸センターみどりの杜

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

昨年度まで（実行委員会に）は10名以上のスタッフが参加しており、各回を数名ずつが担当して全4回のまち歩きを企画・開催していた。しかし、今年度は実働スタッフが6名に減ったこともあり、全2回の企画・開催にとどまった。

開催回数が減ったことで、各回の準備により多くの手間をかけられると好意的に捉えるスタッフがいる一方、年々開催回数が減っていることを憂いるスタッフもいる。

9. 今後の事業の目標・展開等

「新しい人材を引き込んで開催回数を増やしていく」、「現在の規模を維持したままこれまでのコースをブラッシュアップして開催する」など、スタッフと相談し方針を定めて事業を実施していく。

